

安協だより



一般社団法人 徳島県交通安全協会

徳島の交通事故死 「限りなくゼロを目指し!」

～阿波の道 ゆずる心と 待つゆとり～



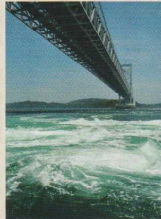
(一社) 徳島県交通安全協会
会長 長倉 健治郎

徳島県の紹介

徳島県は、西に山地を擁し、東が海洋に面する、いわば東向き地形になっており、山、谷、川の多くが東西方向に並んでいます。西日本第2の標高の剣山を頂点に、その山系の1千以上の山々と阿讃山脈とに挟まれた、西日本最長の吉野川が悠々と流れています。吉野川をはじめとする大小の河川が、河岸段丘、扇状地、三角州を形成し、東部海岸沿いに肥沃な平野部が広がって自然豊かな街が形成されています。

藩政時代には、藍が徳島藩経済を

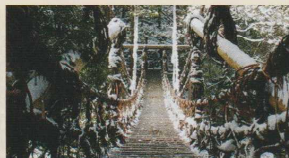
県内には、こんな所も!



鳴門の渦潮

幅がわずか1.3kmの狭い海峡が生み出す鳴門の渦潮。大潮のときには最大で直径20mにもなる。観潮船に乗ればゴーゴーと音を立てる

迫力の渦を間近に見ることができ、また、大鳴門橋遊歩道(渦の道)からも観察できます。



祖谷のかずら橋 平家一族の哀話を秘める、秘境「祖谷」にあるかずら橋。シラクチカズラ(重さ約6トン)で作られたもので、長さ45m・幅2m・水面上1.4m。昔は深山渓谷地帯唯一の交通施設であった。3年毎に架替えが行われます。

大きく支えており、阿波藍は全国でも有数の国産品として各地の市場に進出し、阿波藍商が大いに活躍してきました。これらの事象は、徳島県が相当以前から県外との交流が盛んであったことを物語っているといえます。以来、徳島の農林水産業は可能性と魅力の宝庫となって全国に発信しています。

四国の東玄関である鳴門市は、徳島県の北東部に位置し、「うず」という天下の名勝を持つ古い街で、大化の改新時から官道として開かれた南海道の玄関口として発展して真に近畿圏との交流の掛け橋となっています。また、四国霊場一番札所「霊

山寺一があり、春・秋には多くの老若男女で賑わい、古くからお接待文化が根付いてきた県でもあります。

平成10年4月に県民待望の明石・鳴門ルートが全線開通、平成12年3月には、四国縦貫道が開通し、四国4県都をX字型に直結する「エックスハイウェイ」が誕生、加えて4県を8の字に結ぶ四国横断道も着々と延伸してきています。観光では、阿波おどりシーズンの8月が最も人出が多く、県西部の祖谷地方には年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れ賑わうようになっていきます。

徳島県交通安全協会の現状と課題

(1) 現状

徳島県交通安全協会は、昭和24年11月、交通安全思想の普及と交通道の徳の高揚のための公益目的の法人として旧民法に基づき設立されました。以来、県下15地区に設立されている地区交通安全協会と密接に連携、協力しながら、県民の安心と安全のため交通事故防止に取り組んできまし

た。

平成24年4月1日、公益法人制度改革に基づき新たに定款を定め、「一般社団法人徳島県交通安全協会（以下「県協会」という。）」として発足し、現在に至っております。

平成26年1月4日、運転免許センターが、鳴門市に隣接する板野郡松茂町の旧徳島空港ビルに移転したことに伴い、県協会も県公安委員会から運転免許更新等の事務などを受託していることから、同センター内に賃貸入居し、非営利型の公益事業を実施する法人として活動しています。また、令和2年度からは、運転免許証の更新事務について、県民目線に立ち、より一層の利便性を図るため、県南、県西部にそれぞれ、運転免許更新センターを設置し、活動中です。

(2) 課題

現在、県下15地区交通安全協会の役員、会員については、高齢化が進んでおり、また、警察署の統廃合により、地区同士の連携が希薄となり、更に免許更新時における、協会加入率も年々減少が続くなど、厳しい状況が

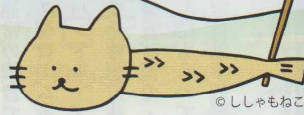
続いております。こども自転車大会などの事業面についても、教職員の業務の多忙、指導者の減少や、こどもの塾通いなどの諸事情により、2年連続参加校が無く、中止となった。大会の開催を講習会に変更するなどの代替え措置を講じているが、事業の運営にも苦慮しているのが現状です。

県協会といたしましては、今後、年々厳しさを増しております組織運営を見直すことが求められており、歴史と伝統のある交通安全協会を存続し県民との掛け橋となっていくために、

- 交通安全協会活動の県民への周知徹底を図る活動
 - 企業等賛助会員等協力事業所の拡大
 - 会費使途の透明性の確保と県民目線に立った接遇の徹底
 - 関係機関・団体と一体となった交通安全コンクールや各種キャンペーンの実施
- などにこれまで以上に創意工夫を凝らした取組が重要と考えています。

安協だより

徳島生まれのししゃもねこ
みんなで進める交通マナーアップ



©ししゃもねこ

徳島県交通安全協会マスコットキャラクター
「ししゃもねこ」

交通事故死「限りなくゼロを目指し！」

平成28年6月、日本自動車連盟（JAF）が交通マナーに関する全国アンケートを実施した結果、居住する都道府県のマナーが「悪い」「とても悪い」と答えた人の割合が徳島県で73・5%に上り、全国で2番目に

悪かったことがわかりました。

また、徳島県においては、第11次徳島県交通安全計画（令和3年度から令和7年度）の着実な推進のため、令和5年度において、関係機関・団体が連携し、県民参加型の交通安全運動を計画・実施することにより、広く県民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣づけ、交通事故防止の徹底を図っているところです。

幸いにも、昨年の交通事故は、発生件数、負傷者・死者数とも減少し、特に死者数にあっては、23人で、前年と比べ9人減少し、統計を取り始めた1960年以降、2番目に少ない結果となりました。しかしながら、今なお多くの尊い命が交通事故で失われていること変わりなく、高齢化社会を象徴するように65歳以上の高齢者が痛ましい交通事故の被害に遭う割合が高いなど、依然として厳しい交通情勢にあるのが現実です。特に本県においては、65歳以上の死者数は全国平均を上回り、全体の4分の3以上を占めており、また、高

齢者が関与する交通事故が発生件数の約半数を占めるなど、今後もより一層の高齢者の交通事故防止対策が必要です。

そこで、県協会としては、各種キャンペーン等を通じ、広く県民に交通安全意識の向上を図るべく、交通事故防止に取り組んでいます。

高齢者の交通事故防止

交通安全関係団体のリーダーとして先頭に立って交通安全活動をリードしてきました県協会としては、高齢者の交通事故を真摯に受け止め、以下の活動に取り組んでいるところです。

○シルバードライバー自己診断講習会の開催

県協会と地区協会は、高齢ドライバーの交通事故防止を目的に、県指定自動車教習所協会、県警察と連携して、平成28年9月から県下全域の高齢ドライバーを対象に「シルバードライバー自己診断講習会」を県内15の自動車教習所（学校）で開催しています。

安協だより

シルバードライバー自己診断講習会の状況
(小松島自動車教習所)



技能診断状況



サボカ一体験乗車

講習では、

- ・ 適性診断（静止視力・動体視力・夜間視力の測定、CRT検査機等を使用して反応速度や操作の正確性等）
- ・ 技能診断（通常の講習では行わない急制動、スラローム走行等の課題を加え、ハンドル・ブレーキの操作方法や安全確認方法等）

を行い、運転習癖及び視力・判断力の低下等を自覚してもらっています。講習は、県指定自動車教習所協会

と協議の上、4～5教習所（学校）を選定し、春・秋の全国交通安全運動期間中を基本に、約15名の受講者を対象に開催しています。

受講者は、春は事故を経験した高齢ドライバー、秋は65歳以上の高齢運転者講習を受講していない高齢ドライバーを対象に参加者を募っています。

○ 高齢者自転車安全運転競技大会の開催

県や老人クラブ連合会との共催に

より、高齢者の自転車事故防止を目的に、毎年秋に高齢者自転車安全運転競技大会を開催しています。

その他、地区協会、関係機関等協働による年間を通じての各種キャンペーン等の開催等に努めているところです。

結びに

「阿波の道 ゆずる心と 待つゆとり」これは、令和5年の徳島県交通安全メインタイトルです。

交通事故を限りなく、減少させるには、人と自転車と車がそれぞれの立場で交通マナーを高め、思いやりと譲り合いの心で結ばれることにより、安全で円滑な交通の流れが形成され事故の起こらない交通社会が築けるのではないのでしょうか。

その一翼を担うのが歴史と伝統のある徳島県交通安全協会や地区交通安全協会であり、今後も県、県警察及び関係団体等と連携を密にして、徳島の交通事故死「限りなくゼロ」を目指したいと考えております。